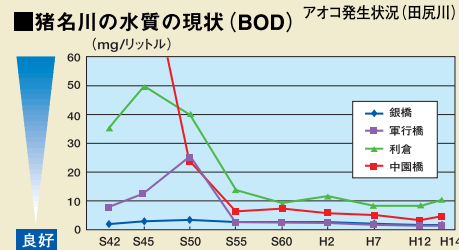


現状の課題

- 近年、水質が改善されてきましたが、水に親しんでいた頃のレベルにまで回復していません。
- ダム湖では、滞留時間の長期化や流入負荷の増大に伴う富栄養化現象、深層部での貧酸素化現象に加え、ダムからの放流水の水温が下流環境に与える影響が問題になっています。
- 生物や、その生息・生育環境にふさわしく、安心して水辺で遊ぶ、水道水源として望ましい水質管理が求められています。



流域全体での取り組みを強力に推進します

具体的な整備内容

**実施項目** ダム湖や河川の水質調査を継続実施するとともに、ダイオキシン類などの有害化学物質についても調査します。

具体的な整備内容

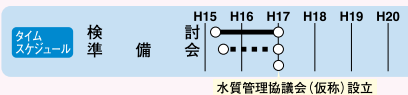
**検討項目** 琵琶湖・淀川流域水質管理協議会 (仮称) の設立に向け、準備会を設けて検討します。

- 住民連携のための取り組み
  - ①住民への情報提供システムの強化。
  - ②水質学習会等。
  - ③学校、住民団体等と連携した水質調査。
- 「淀川流域の水物質循環に係る調査」を実施します。
- 水質管理体制を強化します。
 

琵琶湖・淀川流域水質管理協議会 (仮称) で検討する項目。

  - ①河川の特長に応じた、わかりやすい水質目標の設定。
  - ②関係機関等との情報共有の強化。
  - ③住民連携強化のための一層の取り組み。
  - ④油やその他の化学物質の流出事故の防止・対処の取り組みの強化。
  - ⑤具体的なアクションプログラムの作成とフォローアップ体制の検討。

環境 38 流域全体



現状の課題

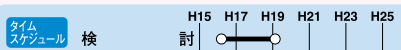
- ダム等の河川横断工作物による土砂移動の連続性の遮断等され、生物の生息・生育環境に影響を与えているところがあります。

山地から沿岸に至るまで、総合的に検討します

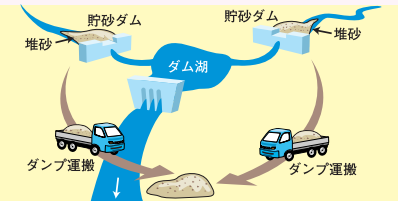
具体的な整備内容

**検討項目** 下流河川環境の状況を調査した上で、下流への土砂供給の方策を検討します。

環境 45 一庫ダム



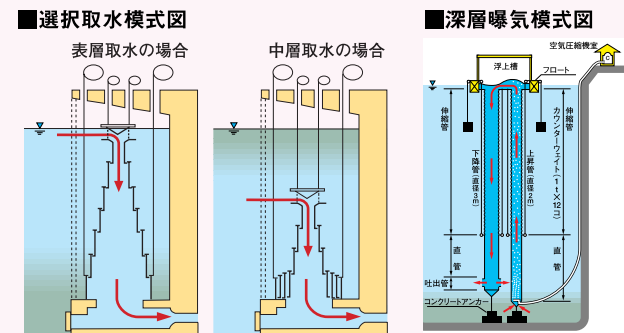
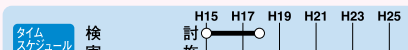
■ダンプによる下流への運搬 (土砂移動の例)



ダンプ等により土砂を運搬し、洪水を利用して下流へ流す。

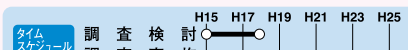
- 既設の選択取水施設、深層曝気装置を継続活用し、より効率的な操作方法を検討します。

環境 40 41 一庫ダム



- ダム湖の底質モニタリングを継続実施し、底質改善対策について検討します。

環境 42 一庫ダム



現状の課題

- これまでの河川整備により、永年育まれてきた生態系は大きく変化し、在来種が減少する一方、外来種が増加しています。

■植物の出現種数に占める外来種



■猪名川の主な外来種 ■密放流による外来種

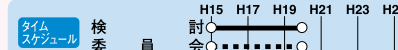


モニタリングを継続実施し、対策を検討します

具体的な整備内容

**検討項目** ●生物の生息・生育環境の保全・再生について検討します。

環境 55 高田地区 環境 56 東園田地区  
環境 57 北河原地区



外来種の駆除方法等について検討し、関係機関や住民等と連携しながら外来種対策を実施します。

- 関係機関、地域住民等と連携しながら推進します。
- 自治体の条例制定に向けた調整・協議をします。

広報・啓発 予防措置  
すでに侵入した外来種への対応 調査・研究

現状の課題

- 河川は多様な自然景観を有し、都市空間における貴重な親水空間でもあります。しかし、場所によって、コンクリート護岸・橋梁・高水敷利用施設等の人工構造物が周辺の景観と調和していません。
- ダム貯水位の変化により、ダム貯水池の法面において裸地が存在するところがあり、景観を損ねています。

■一庫ダム貯水池法面の裸地

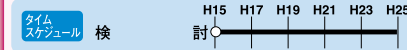


周辺の景観との調和を図ります

具体的な整備内容

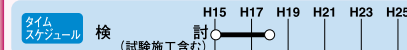
**検討項目** 周辺景観との調和に関して検討するとともに、河川管理者以外が実施する橋梁整備や高水敷利用施設等の許認可に際しては、河川景観の観点から助言・指導を行います。

環境 61 流域全体



ダム貯水池法面の水位変動域の裸地対策として、緑化を検討するとともに、その結果を踏まえて試験施工を実施します。

環境 62 一庫ダム



現状の課題

- 河川工事の施工、土砂の仮置き、工事中の濁水の発生等が、生物の生息・生育環境に影響を与えています。

河川工事は、工法などに細心の注意を払います

具体的な整備内容

**実施項目** 生物に配慮した護岸工法を採用する。

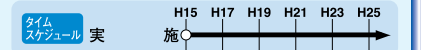
魚類等の遡上・降下時期や産卵期、鳥類や昆虫類の繁殖期、植物の結実期等に配慮します。

現況の植生を考慮し、必要最小限の道路幅、ルートとなる工事中の道路を設置します。

生物の生息・生育に影響を与えないよう、濁水防止等の措置を実施します。

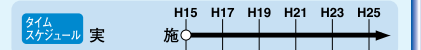
工事中の振動や騒音等を最小限に抑える施工機械を使用します。

環境 63 ~ 環境 67 流域全体



堤外地における土砂仮置場面積を縮小するため、土砂仮置場は堤内地に確保するように努めます。

環境 69 流域全体



工事資材等の仮置き場所は必要最低限の面積に縮小する。

環境 70 流域全体

